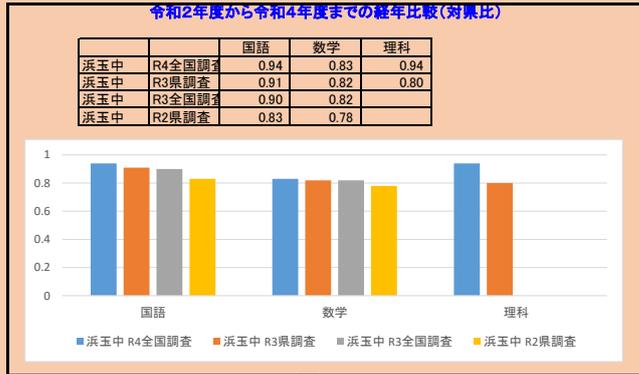


浜玉中学校 「学力向上の取組」 令和4・5年度

◆学習状況調査結果分析

R3.5月調査とR4.4月調査の比較

科目	R3	R4
国語		
県と本校	-6	-4
国と県	-2.6	-1
数学		
県と本校	-10	-8
国と県	-1.2	-4.4

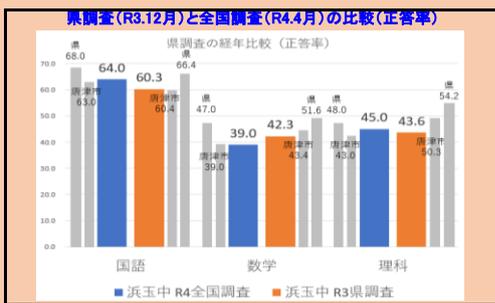


◆令和4年度は、国語、数学のいずれも、県と本校の差が2ポイント減少
◆令和4年度は、数学において国と県の差が拡大している中で、県と本校の差は減

◆受検した生徒の違いはあるが、向上の兆しがある



◆国語、数学、理科のすべての教科において向上
◆理科は、0.14ポイントとより向上
⇒教え込みの授業から考えさせる授業への転換の効果



◆国語、理科の教科において向上
◆数学は、正答率は低下しているが唐津市の平均値まで向上
◆県との平均も9.3⇒8.0と1.3ポイント縮小

◆単元テスト実施による効果

1 生徒の家庭学習時間の増加

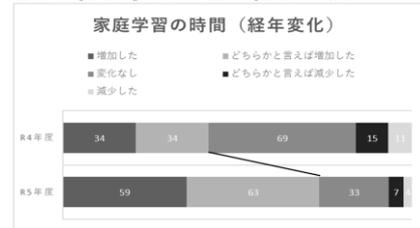


図1 家庭学習時間の変化に関する生徒意識

令和4年度は、単元テストに移行したことによる家庭学習時間の増加効果が半数程度に留まったこととは否めないが、令和5年度は、2倍の増加効果が表れており、単元テストの実施による家庭学習時間の増加は顕著。

2 生徒の評価・評定の向上意識

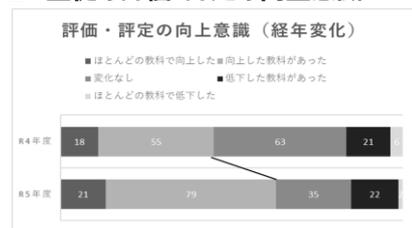


図2 評価・評定に関する生徒意識

令和4年度は、単元テストに移行したことによる評価・評定の向上意識は半数程度に留まったこととは否めないが、令和5年度は、1.4倍の向上意識が表れており、単元テストの実施による評価・評定に関する生徒の向上意識は顕著。

なお、実際の評価・評定を分析しても単元テストの実施による評価・評定の向上が見られる

◆部活動(団体戦)の成績

- 【令和2年度】**
夏季総体(地区大会)
 優勝 野球部
 準優勝 剣道部男子
 準優勝 剣道部女子
 準優勝 サッカー部
 準優勝 バレーボール部
- 夏季総体(県大会)**
 準優勝 野球部
- 新人戦(地区大会)**
 優勝 野球部
 準優勝 バレーボール部
 第3位 男子バスケットボール部
- 新人戦(県大会)**
 優勝 野球部(全国大会出場権獲得)
- 駅伝大会(地区大会)**
 準優勝 女子

- 【令和3年度】**
夏季総体(地区大会)
 優勝 バレーボール部
 準優勝 剣道部女子
 第3位 男子ソフトテニス部
- 新人戦(地区大会)**
 準優勝 野球部
 準優勝 バレーボール部
 準優勝 男子ソフトテニス部
 準優勝 男子バスケットボール部
 第3位 女子卓球部
- 県吹奏楽大会**
 銅賞 吹奏楽部

- 【令和4年度】**
夏季総体(地区大会)
 優勝 男子ソフトテニス部
 準優勝 野球部
 準優勝 バレーボール部
 準優勝 剣道部女子
 第3位 剣道部男子
 第3位 女子卓球
 第3位 サッカー部
- 新人戦(地区大会)**
 優勝 バレーボール部
 優勝 野球部
 優勝 剣道部女子
 優勝 男子バスケットボール部
- 駅伝大会(地区大会)**
 準優勝 女子
 第3位 男子
- 県吹奏楽大会**
 銅賞 吹奏楽部

3 単元テスト実施に関する生徒意識

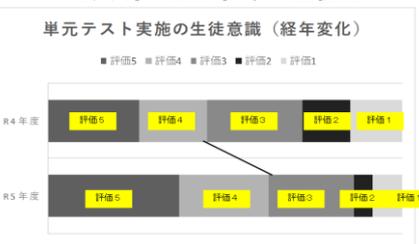


図3 単元テスト実施に関する生徒意識

図3のとおり、生徒の単元テストに関する肯定評価(5・4)は否定評価(2・1)を大きく上回っているとともに、経年においても肯定評価が大きく増加している。生徒たちは、単元テストを肯定し、日常的に学習することを受け入れているものと捉えられる。

4 単元テスト実施に関する教員意識

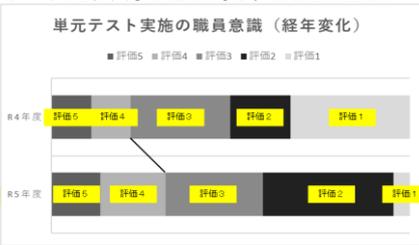


図4 単元テスト実施の職員意識

図4のとおり、期末テストを単元テストに切り替えるという大きなフェイズであるが、職員意識に好転の兆しが見られる。

5 単元テストによる評価・評定の向上

3年生 単元テストの効果

2年(単元)のとき、学期で比べると
 1学期⇒2学期 2学期⇒3学期

UP 5・4が増えて、2・1が減っている
 Aが増えて、Cが減っている UP

2年生 単元テストの効果

1年(単元)のとき、学期で比べると
 1学期⇒2学期 2学期⇒3学期

UP 5・4が増えて、2・1が減っている
 Aが増えて、Cが減っている UP